

水稻の生育状況と今後の管理対策（第4号）

令和5年6月30日
新潟県農林水産部

〔6月29日現在の県内全域の生育状況〕

- ◎ コシヒカリでは指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「並」、茎数は「やや多い」、葉数の進み及び葉色は「並」の生育状況です。
- ◎ 新之助では指標値に比べ、草丈、茎数、葉数の進み及び葉色はすべて「並」の状況です。

〔気象予報と今後の生育見込み〕

- ◎ 6月29日発表の1か月予報によると、向こう1か月（7/1～7/30）の気温は高い見込みです。降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されています。
- ◎ 高温気象により、水稻の生育は平年より早まり、幼穂形成期および出穂期は平年より早まる見込みです。
- ◎ 県では6月29日に「梅雨時の大雨に伴う農作物等の管理対策」を発表して、管理の徹底を呼びかけています。

〔今後の管理対策のポイント〕

早生品種

- ◎ 生育が早まっています。遅れずには場で幼穂の長さを確認し、地域の農業普及指導センターやJA等の技術情報を参考に、適期に適量の穂肥^{*1}を施用してください。
特に多収性品種では、収量確保のため、適正な穂肥施用を徹底し、出穂期までの葉色を確実に維持してください。
- ◎ 斑点米カメムシ類の被害を防止するため、計画的な除草と防除を徹底し、カメムシ類の密度を抑えてください。
- ◎ いもち病の初発が確認され、感染しやすい気象条件が続いています。葉いもちの早期発見に努め、病斑を確認した場合は、速やかに薬剤防除を行ってください。

コシヒカリ

- ◎ 出穂期は平年より早まる見込みです。
- ◎ 中干し^{*2}は遅くとも出穂期の1か月前までに終了しましょう。終了後は速やかに浅水の間断かん水^{*3}を行い、徐々に飽水管理^{*4}へ移行してください。
- ◎ 今後も高温が続くと予想されています。ケイ酸質資材を施用するなどの暑さ対策を行い、品質確保に努めましょう。
- ◎ 斑点米カメムシ類の密度を抑えるため、計画的な除草と防除を行ってください。

*1 穂肥（ほごえ）：穂が出る前に追肥すること

*2 中干し（なかぼし）：田の水を落として、一時的に田を乾かし、稲の生育量を適正に保つ作業のこと

*3 間断かん水：たん水状態と落水状態を数日間隔で繰り返す水管理方法のこと

*4 飽水管理（ほうすいかんり）：土壌を湿潤状態に保つこと

新 之 助

- ◎ 「食味・品質基準」を達成するため、生育量が指標値に比べ大きくなっているほ場では、乾かしすぎに注意して中干しを継続し、茎数の増加を抑えてください。
- ◎ ほ場で葉いもちの発生を注意深く観察し、発生が確認された場合は、速やかに薬剤防除を行ってください。

熱中症予防

- ◎ 湿度が高まり、蒸し暑くなると熱中症の発生リスクが高まります。
- ◎ 溝の手直しや穂肥施用など、屋外での農作業時には、水分補給や休憩時間を十分に確保するなどの熱中症予防と健康管理に十分注意してください。農道・畦畔の草刈り作業では周囲に気を配り、農作業の安全対策にも十分配慮してください。

- ◎ 今後の管理対策発信予定日
7月11日・21日、26日、9月8日

〔補足資料〕

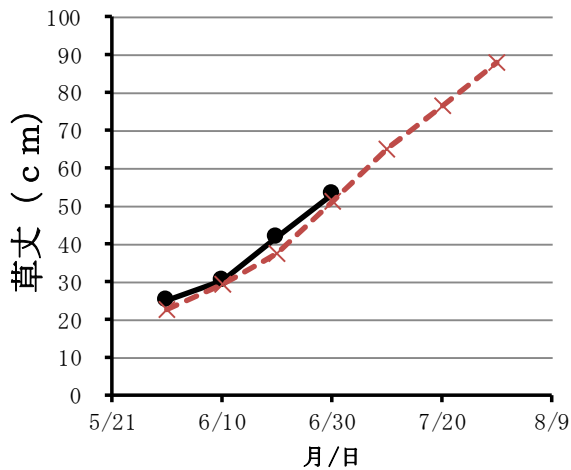
1 農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（6月29日現在）

コシヒカリ

○ 指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「やや多い」、葉数の進み及び葉色は「並」の状況です。

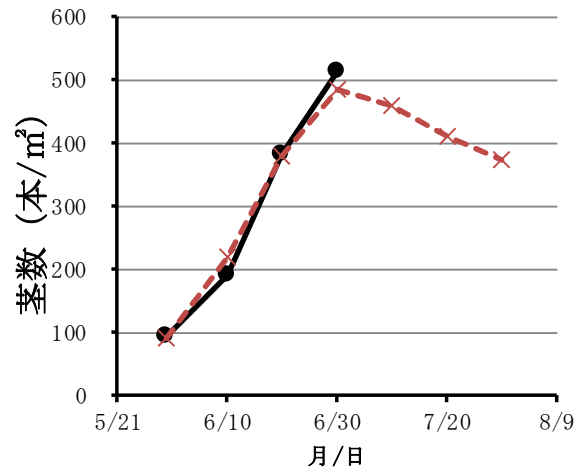
項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	53 cm	51 cm	並	103%
茎数	513 本/m²	486 本/m ²	やや多い	106%
葉数	10.1 葉	9.9 葉	並	+0.2 葉
葉色 (SPAD 値)	38.1	38.4	並	-0.3

注) 県内全域の15生育調査ほデータの平均値(田植え5月11日、栽植密度16.9株/m²)



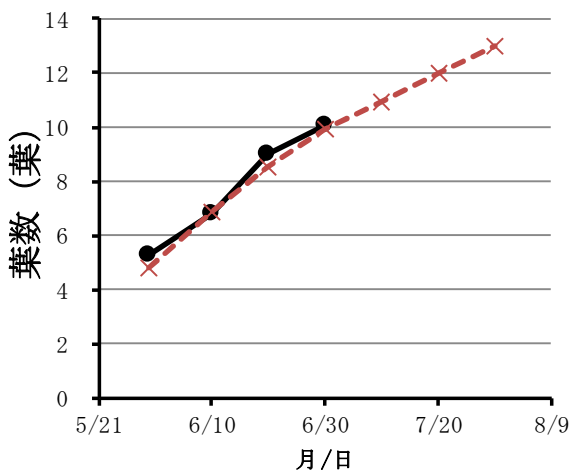
● 本年値 -x- 指標値

草丈の推移
(県全体)



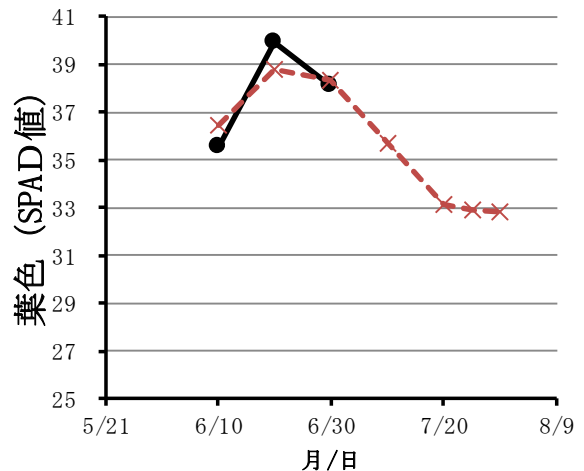
● 本年値 -x- 指標値

茎数の推移
(県全体)



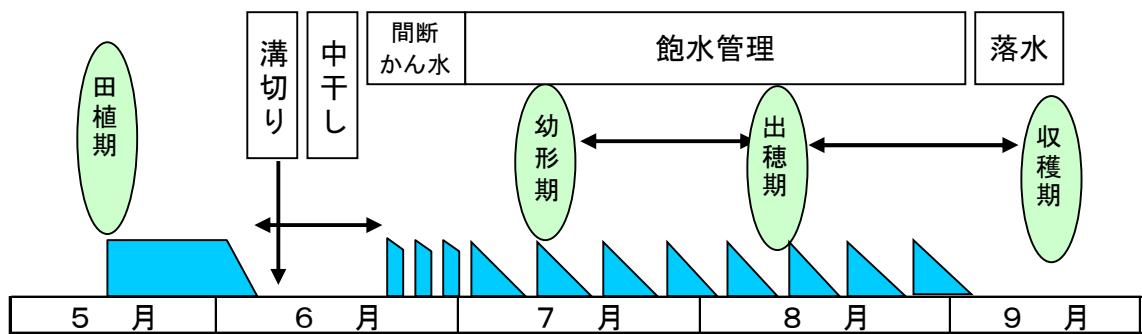
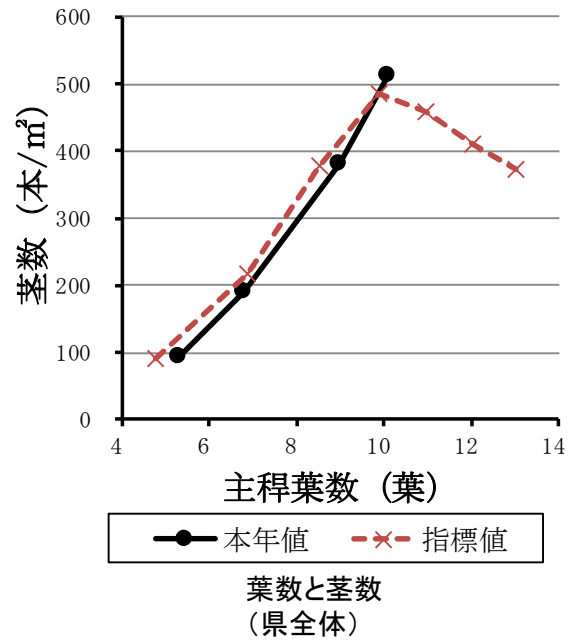
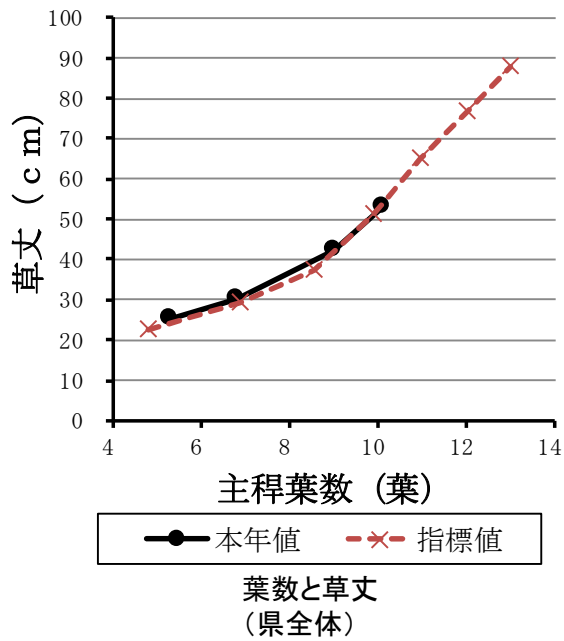
● 本年値 -x- 指標値

葉数の推移
(県全体)



● 本年値 -x- 指標値

葉色の推移
(県全体)



栽培期間中の水管理のイメージ



飽水管理により足跡に水がたまっている状態

◎水尻を止めた状態で田面の水がなくなり、溝や足跡の底に水がたまっている箇所が散見される状態になったらかん水する。

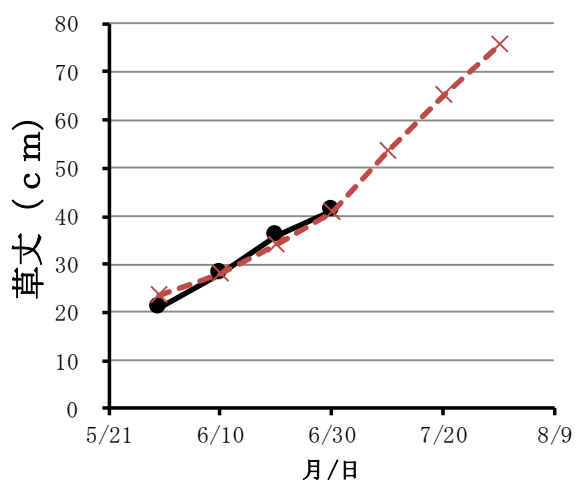
◎地温の上昇を抑えるには、晴天日では午前中、曇天日では朝のかん水が望ましい。

新之助

○ 指標値に比べ、草丈、茎数、葉数の進み、葉色はすべて「並」の状況です。

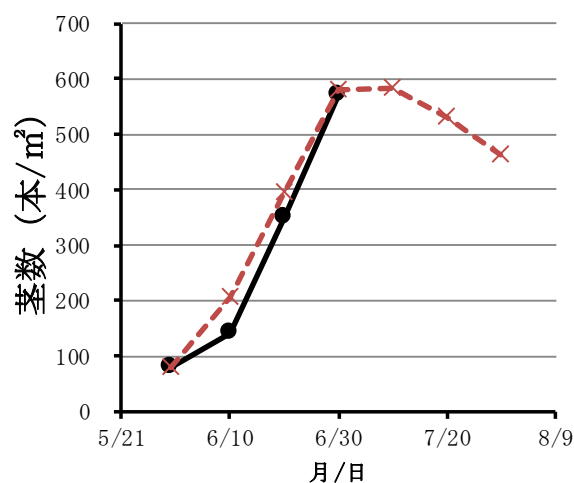
項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	41 cm	41 cm	並	100%
茎数	570 本/m ²	579 本/m ²	並	98%
葉数	9.8 葉	10.1 葉	並	-0.3 葉
葉色 (SPAD 値)	36.6	37.5	並	-0.9

注) 県内全域の15生育調査ほデータの平均値(田植え5月17日、栽植密度16.2株/m²)



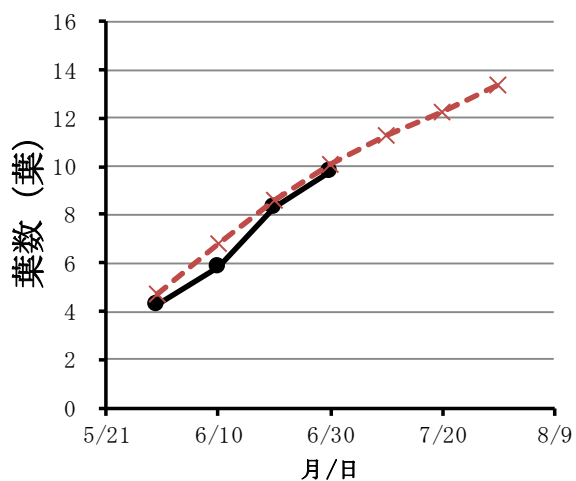
● 本年値 -x- 指標値

草丈の推移
(県全体)



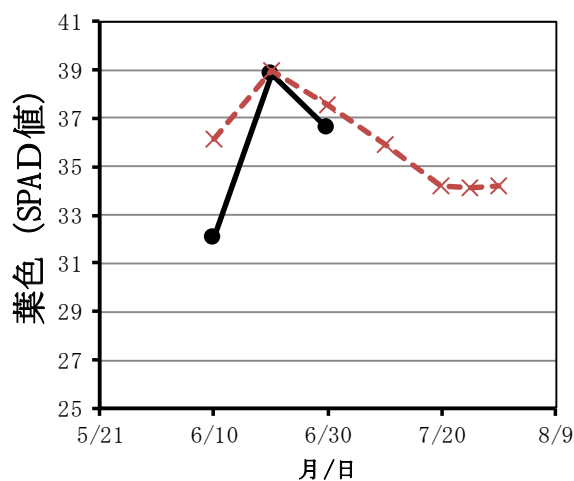
● 本年値 -x- 指標値

茎数の推移
(県全体)



● 本年値 -x- 指標値

葉数の推移
(県全体)



● 本年値 -x- 指標値

葉色の推移
(県全体)

こしいぶき (参考)

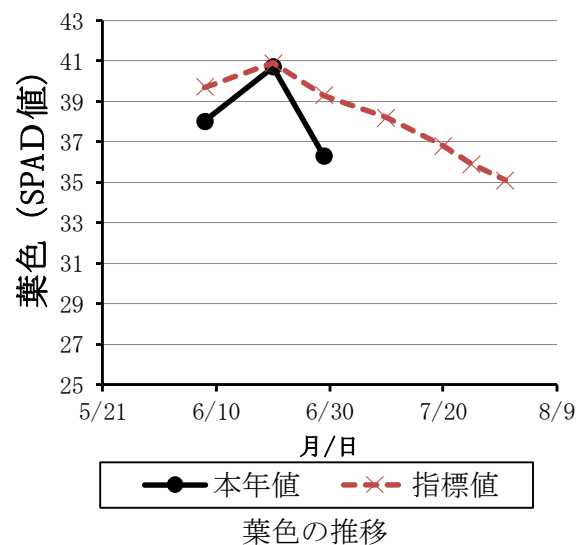
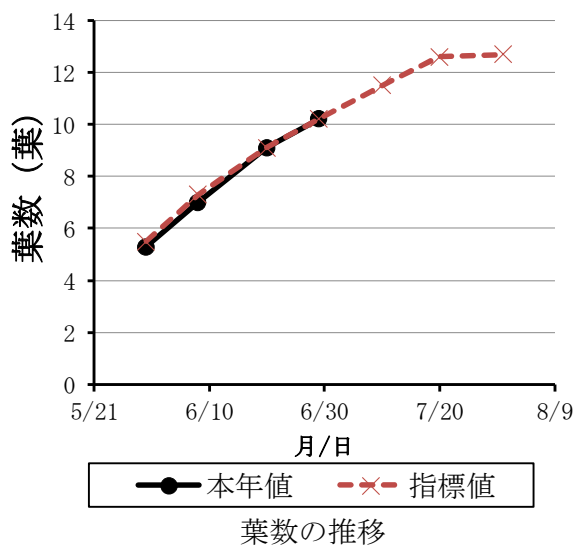
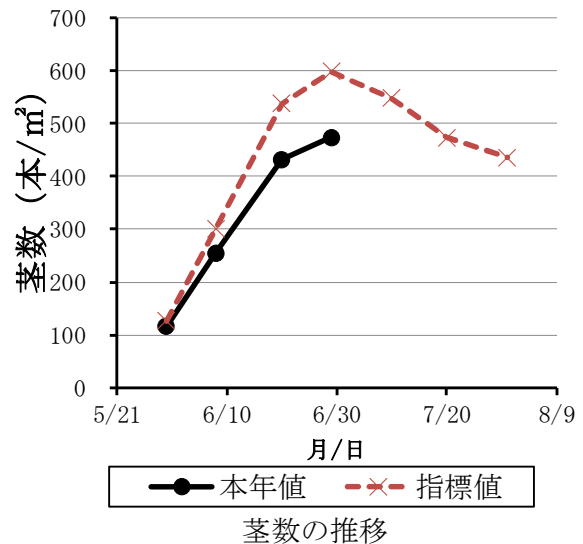
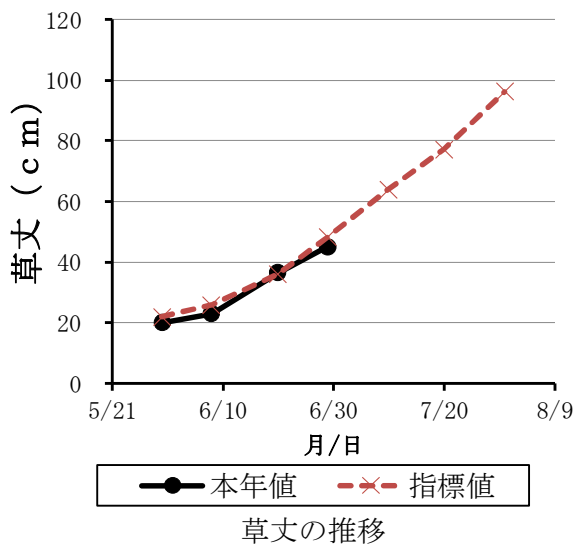
○ 指標値に比べ、草丈は「やや短い」、茎数は「少ない」、葉数の進みは「並」、葉色は「薄い」状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	45 cm	48 cm	やや短い	93%
茎数	473 本/m ²	598 本/m ²	少ない	79%
葉数	10.2 葉	10.2 葉	並	±0.0 葉
葉色 (SPAD 値)	36.3	39.3	薄い	-3.0

注1) 化学肥料栽培 田植え5月10日、栽植密度21.7株/m²

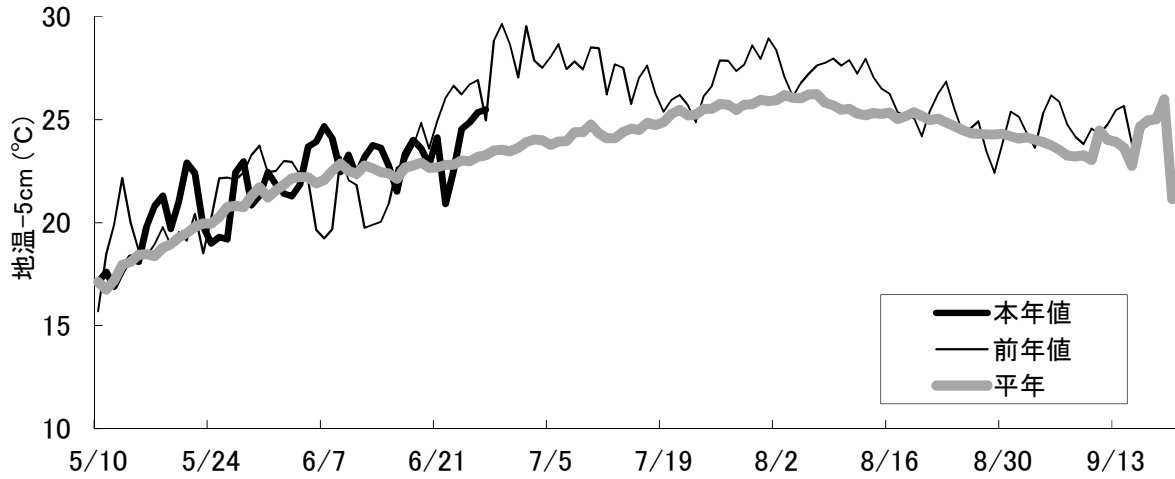
注2) 基肥窒素成分量 3.0kg/10a

注3) 長岡市長倉町(作物研究センター)の生育調査ほデータ

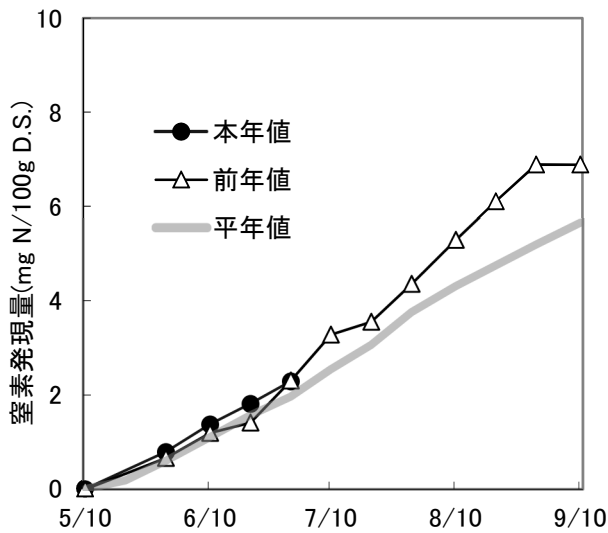


2 ちりよく 地力窒素の発現状況

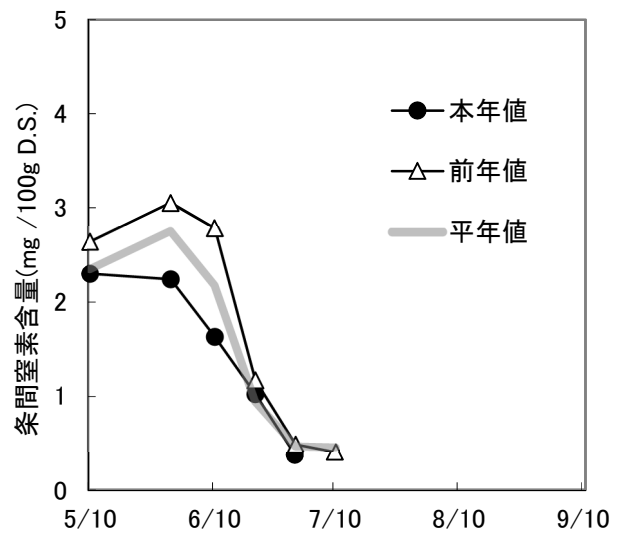
- 6/19 ~ 6/28 の期間中の日平均地温は平年差+0.7で推移しました。6/28 現在の地力窒素の発現量と条間窒素量は平年並で、土壤中に無機態窒素はほぼ残存していない状態でした。



水田地温（5 cm深）の推移
 （農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査）
 （5月25日以前はセンサ異常のため、参考値として7.5 cm深のデータを記載）



地力窒素発現量の推移(6月28日)
 （農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査）
 初期値=0、田植日：5月10日、化学肥料栽培
 基肥窒素成分量：3.5 kg/10a



条間窒素含量の推移(6月28日)
 （農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査）
 田植日：5月10日、化学肥料栽培
 基肥窒素成分量：3.5 kg/10a